

05 Sustainability Bolstering Non-Financial Capital

サステナビリティ 非財務資本の強化



5-1 イノベーションを通じた現場の課題解決 54

- ・解決する社会課題と取り組み
- ・社会関係資本の強化
- ・知的資本の強化
- ・製造資本の強化
- ・DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進

5-2 グローバル人財基盤の強化 64

- ・人財マネジメント
- ・働きがいのある職場づくり

5-1

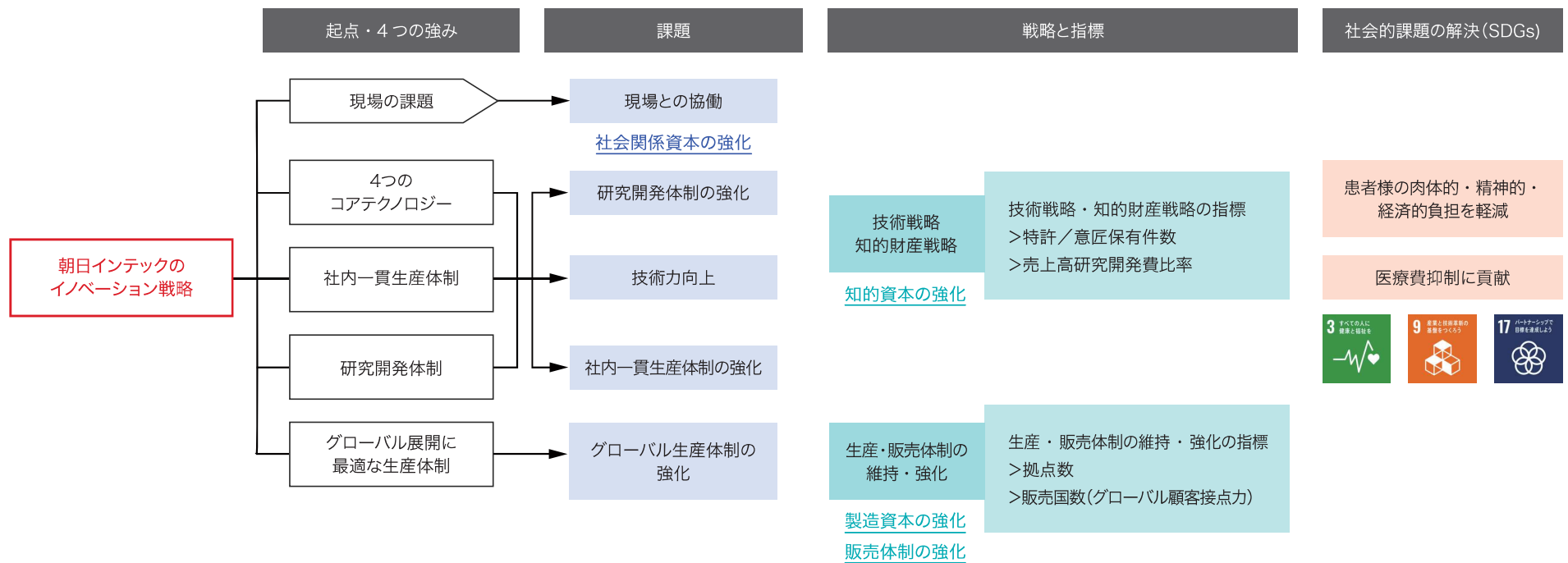
イノベーションを通じた現場の課題解決

非財務資本の強化により、イノベーションの更なる創出に取り組んでいます。

基本的な考え方

当社グループのイノベーションは、「4つのコアテクノロジーを主体とした、高度で独自性の高い素材加工技術」「社内一貫生産体制」「研究開発体制」「グローバル展開に最適な生産体制」という4つの強みから創出されます。この4つの強みを支えているのが、DNAを継承する優れた人財(人的資本)をはじめ経営の土台で

ある非財務資本(人的資本・製造資本・知的資本・社会関係資本)です。当社グループは、これら非財務資本を強化することにより、イノベーションの更なる創出による現場の課題解決に向け戦略的に取り組んでいます。



5-1 イノベーションを通じた現場の課題解決

解決する社会課題と取り組み

① 朝日インテックが貢献したい社会的課題

当社グループの事業活動の起点は、現場の課題を解決することです。医療および産業機器の分野において、安全と信頼を基盤とする「Only One」技術や「Number One」製品を世界に発信し続けることにより、現場の課題を解決し、全てのお客様の「夢」を実現するとともに、広く社会に貢献することを目指します。

社会的課題の解決(SDGs)

患者様の肉体的・精神的・経済的負担を軽減

医療費抑制に貢献



3 すべての人に
健康と福祉を



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



17 パートナリシップで
目標を達成しよう

② 具体的な取り組み

これらの社会課題に対し、当社グループではメディカル事業およびデバイス事業を通じて、技術と製品の両面から具体的な解決に取り組んでいます。

患者様の肉体的・精神的・経済的負担を
軽減する製品の開発(メディカル事業)

顧客ニーズに対応した製品の開発(デバイス事業)

当社グループは、他社にはない高い製品優位性を持ち、CTO治療も可能なPCIガイドワイヤーや貫通カテーテルなどの低侵襲治療に必要な製品群を開発・販売し、CTO領域におけるPCI治療選択率の拡大に寄与してまいりました。常に医療課題に向き合い、医師のニーズに応える製品を提供し続けることで、医療現場における選択肢の充実による治療成功率向上や治療時間短縮への貢献を通して、患者様の肉体的・精神的・経済的負担低減にもつながっています。また、お客様である医療機器メーカーや産業機器メーカーなどの現場の課題を共有化し、素材レベルまで立ち返って何度も試行錯誤を重ねながら、高付加価値な機能を備えた部材製品を開発・供給することで、顧客ニーズに応えていくことに努めています。

また現在、治療が困難とされている循環器・末梢血管領域などの石灰化病変などの臨床課題について、先端技術を使った新しい機能を保持した製品群を開発することや、人用医療機器で培ってきた技術力を活かして獣医師のニーズに応える新たな伴侶動物用医療機器製品を開発するなど、新たな社会課題の解決に向けての挑戦を、進めてまいります。

これらの取り組みを迅速に実現するため、タイ工場の開発機能をさらに充実させ、現在、国内開発拠点で担っている開発機能の一部をタイの開発拠点へ段階的に移管しています。国内開発拠点については、高付加価値領域に特化することで、グローバル全体における研究開発体制の効率化および高度化を推進しています。詳細は60ページをご参照ください。

新製品・新技術および新分野への参入

最近においては、以下のような新製品および新技術などを確立・推進し、また新分野への参入に挑戦しています。

【メディカル事業】

当社グループは、グローバル市場の戦略的な開拓および患部・治療領域の拡大に向け、治療用製品のさらなる強化と拡充に取り組んでいます。特に非循環器領域においては、末梢血管系および脳血管系領域における製品強化を進めています。

2025年6月期の主な活動として、末梢血管系領域では、末梢血管治療用ガイドワイヤー「CROSSLEAD Penetration」および「CROSSLEAD Tracker」を開発しました。「CROSSLEAD Penetration」は、従来製品を上回る穿通性能を実現し、高い穿通力が求められる場面において、ガイドワイヤーの選択肢拡大に貢献しています。「CROSSLEAD Tracker」はニッケルチタンとステンレスを接合した構造を採用し、膝下領域における高度に屈曲した血管への追従性と、狭窄血管での操作性向上を実現しています。両製品ともに、日本および米国での販売を開始しています。



末梢血管治療用ガイドワイヤー
「CROSSLEAD Penetration」

末梢血管治療用ガイドワイヤー
「CROSSLEAD Tracker」

5-1 イノベーションを通じた現場の課題解決

脳血管系領域では、脳血管治療用ガイドワイヤー「CHIKAI Nexus 014」を開発しました。本製品は、特に蛇行した末梢脳血管の選択操作を容易にすることを目的に、冠動脈分野で培った技術を応用し、従来品と比較してトルク性能を向上させることで、高い操作性を実現しています。なお、日本での販売を開始しています。

脳血管治療用ガイディングカテーテル「Branchor X」につきましては、FDA承認を取得しており、現在、米国での販売開始に向けた準備を進めています。

一方、循環器領域において次世代CTO貫通デバイスとして長年開発を進めてまいりましたプラズマワイヤーシステムにつきましては、昨年、探索的治験を終了し、検証的治験の準備を進めていましたが、事業的判断により開発を断念しました。本技術については、今後、新たな臨床ニーズの探索を進めながら、より広範な適用可能性を検討してまいります。

外科手術支援ロボット「ANSUR」の改良開発に向けた取り組みも実施しています。

従来の腹腔鏡手術で必要だった複数名の助手役割（鉗子の保持・牽引、内視鏡カメラの操作）を1台で担うことを目的としており、ロボットによる安定した視野確保と組織の把持により、手術の効率化や患者への負担軽減、さらには外科医不足の解消やワークライフバランスの改善が期待されるなどの社会的貢献についても見込まれます。

ANSURは2023年2月に医療機器としての薬事承認を取得し、実際の医療現場への導入が進んでいますが、今後の拡販に向けて、臨床現場でのフィードバックを基に継続的な改良開発を行っています。

さらに、これらの取り組みに加え、石灰化病変に対応する新製品の開発、伴侶動物向け医療機器製品の開発、ならびに脳血管系領域における高付加価値製品の開発など、高付加価値製品への展開と社会課題の解決に向けた挑戦を積極的に進めています。詳細は40ページをご参照ください。



腹腔鏡手術支援ロボット

ANSUR

脳血管治療用バルーン付きガイディングカテーテル
「Branchor X series」

5-1 イノベーションを通じた現場の課題解決

【デバイス事業】

当事業においては、当社のコアテクノロジーを進化させるとともに、Only Oneとなる新製品の開発や、さらなる技術開発および技術の深耕に取り組み、さまざまな分野で採用される高機能・高付加価値な技術・製品の開発を行っています。

医療部材分野においては、金属系および樹脂系の双方で強化を進めています。金属系では、当社独自の高性能部材である中空ケーブルチューブ「ACT ONE (アクトワン)」をはじめ、トルク伝達性および高速回転駆動に優れたトルクコイル・ドライブケーブル、高い破断強度を有するハイテンションワイヤーロープ、ならびにそれらのアッセンブリー技術が高く評価されています。これらの技術を活かし、国内外の大手医療機器メーカーおよび産業機器メーカーに対し、部材および追加加工製品の量産納品を行っています。

樹脂系においては、カテーテルを構成する内層樹脂ライナー、金属補強層、バルーン部材、樹脂チューブ部材を、高精度かつ薄膜で成形する独自技術を構築し、対応しています。さらに、金属系・樹脂系医療部材にとどまらず、顧客ニーズに応じた機構設計や設計思想に基づく製品実現を支える高精度な精密加工技術を事業内に保有しています。加えて、独自の設備カスタマイズや治工具の内製化を通じて、技術の拡大と深耕に取り組んでいます。

当事業の技術開発力は、自社ブランド治療用製品の拡充にも寄与しています。医療事業においては、冠動脈治療用ガイドワイヤー「CELHAWK」、末梢血管治療用ガイドワイヤー「CROSSLEAD 0.014」、脳血管治療用ガイドワイヤー「CHIKAI Nexus 014」に用いられる金属部材や、腹部および末梢治療用マイクロカテーテル「Veloute 19 DM」の樹脂部材などを開発しました。

医療機器メーカー向け部材としては、内視鏡処置具および本体、IVUS、OCT向け部材などを、産業機器メーカー向け部材としては、OA機器、家電製品、靴紐、釣糸など、多様な用途に応じた設計・試作に柔軟に対応することで新規案件が増加しています。加えて、各案件の量産化に向けた製品検証活動にも注力しました。

さらに、外科手術支援ロボット「ANSUR」のツールユニット（手技鉗子）については、術者の要望を反映した改良開発を行うとともに、ロボット本体の組立製造をデバイス事業に取り込み、拡販体制を構築することで、新たな領域の開拓に貢献しています。

今後も当事業では、独自の素材加工技術や精密加工ノウハウ、設備カスタマイズ力、ならびにグローバルに展開する生産・開発体制といった非財務資本を活かし、多様化・高度化するニーズに応える高機能・高付加価値な部材の提供を通じて、医療機器分野および産業機器分野における価値創出と持続的な事業成長を目指してまいります。



脳血管治療用ガイドワイヤー
「CHIKAI Nexus 014」

5-1 イノベーションを通じた現場の課題解決

社会関係資本の強化

現場との協働

メディカル事業

近年では、医療現場で豊富な経験を持つ各分野のトップドクターと共同研究開発体制を強化することにより、医療現場のニーズに合った製品開発を展開しています。循環器分野、末梢血管分野、脳血管分野や消化器分野のトップドクターや医療機関と契約を締結し、臨床現場のニーズをヒアリングしながら共同開発を進めています。

こうした活動は海外でも行われており、米国に開発部門を設置し、現地ドクターのニーズを試作品に反映できる体制を構築しているほか、国内外のドクターのニーズを製品開発に取り入れています。

グローバル本社 R&Dセンター内に設置されている実際の手術室を再現した「シミュレーションルーム」では、開発製品ごとに臨床課題を再現した独自の人体モデルを用いて、国内外のトップドクターに当社グループの技術・製品を体感いただき、改善へのご要望などのフィードバックを即時に製品開発に活用しています。

また、ソフトウェアの研究開発で複数の大学、研究機関、病院との共同研究を実施しています。

デバイス事業

当社グループは極細ステンレスワイヤーロープの製造と加工を祖業としています。現在では極細ステンレスワイヤーロープの製造と加工に加えて、樹脂製品の製造と加工においても高い評価をいただいております。デバイス事業の製品は医療機器分野、産業機器分野の部材として幅広くご使用いただいております。お客様独自の仕様に基づく部材を、ご要望に応じて開発することで、お客様の幅広いニーズにお応えしています。



5-1 イノベーションを通じた現場の課題解決

社会関係資本の強化

現場との協働

当社グループでは各分野のトップドクターや医療機関と契約を締結し、臨床現場のニーズをヒアリングしながら共同開発を進めています。

また、世界中で開催される学会等においても現地のドクターと意見を交わすことで、臨床現場のニーズを製品開発に取り入れています。

世界中のドクターの声にこたえて低侵襲治療の新しい扉を開いていきます。

循環器系



Prof. Dr. med. Kambis Mashayekhi
MEDICLIN Heart Center Lahr



朝日インテックはグローバル企業には何が必要とされるかを理解していました。さらに、それぞれの要求に応えるアプローチの大切さも心得ていました。だからこそ今、世界各地の市場に合わせた確かな事業開発を行っているのです。



Lei Ge MD, PHD
Fudan University Zhongshan
Hospital



朝日インテックの製品がなければ、複雑な CTO（慢性完全閉塞）治療を行なうのは不可能です。中国で新たに発売された専用デバイスのおかげで、複雑な PCI の成功率と治療効果が飛躍的に向上しました。

末梢血管系



Jihad A. Mustapha, MD, FACC,
FSCAI
Marion Heart Associates,
P.A. Ocala Florida



私は朝日インテックがそれまでの常識を覆す革新的な技術を世に送り出すのを目にしました。ワイヤーやカテーテルに代表される朝日インテック独自の技術によって、患者の治療後の経過および結果は大きく変わりました。



Craig Walker M.D.
Cardiovascular Institute of
the South



末梢血管治療において、CTOや高度石灰化は依然として大きな課題であり、本来の血管内腔（真腔）を確保できるかどうか治療成功の鍵となります。朝日インテックのガイドワイヤー貫通カテーテルは、優れたトルクコントロールと強固なサポート力を提供し、ワイヤーが血管走行から逸脱する可能性を低減しています。これにより、難易度が高い病変においても医師が適切なルートを維持しやすくなり、成功率向上につながっています。

脳血管系



Adnan H. Siddiqui, MD, PhD,
FACS, FAHA
Jacobs Institute



朝日インテックの技術の強みはワイヤーの製造です。製造工程全てを自社でコントロールしているので、コーティングも、樹脂も、ワイヤーの種類や形状も、他社と比べてはるかに柔軟に対応できるのです。

腹部血管系



阿保 大介 医師
北海道大学病院



Veloute19DM（腹部血管系製品）は、従来の技術が抱えるトレードオフの問題を解消し、今までにないコンセプトを具現化することで、ユーザーに新しい価値を提供することができる製品です。高度な技術力があるからこそ成し遂げられる成果であり、朝日インテックの革新性と確かな実力が表れた製品だと自信を持っています。

消化器系

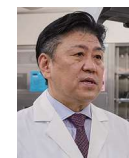


木暮 宏史 医師
日本大学医学部附属板橋病院



もともとガイドワイヤーに関して朝日インテックはかなり進んだ技術を持っているので、内視鏡の領域に参入してから、新しいガイドワイヤーをいくつか開発し、我々も使用経験があります。我々の想像を超えたガイドワイヤーを作ってくれる期待感があります。

外科手術支援ロボット ANSUR



伊藤 雅昭 医師
国立がん研究センター東病院



1人の外科医で3人分の外科医が行う手術を的確にできるということが大きな特徴です。実際にこういったものが出てきて既に20例以上手術ロボットを使って手術しています。これは必ず将来的に、日本はおろか世界中で使われる技術だと感じています。

5-1 イノベーションを通じた現場の課題解決

知的資本の強化 1

研究開発体制の強化

研究開発について

研究開発型企業である当社グループは、創業時より研究開発活動を経営の重要項目の1つとして位置付けています。

当社グループは、4つのコアテクノロジー（伸線技術、ワイヤーフォーミング技術、樹脂コーティング技術、トルク技術）を主体とした、高度で独自性の高い素材加工技術を備えることに加えて、原材料から製品までの一貫生産体制を構築することによって、当社独自の素材および機能を有した製品の開発・製造が可能となっています。

これは、同業他社ではあまり見られない医療機器分野と産業機器分野の技術循環、日本の研究開発拠点と海外の生産拠点との技術連携など、当社グループならではの強みです。また、これら当社独自の機能を活かし、近年では、医療現場での豊富な経験を持つ各分野におけるトップドクターとの共同研究開発体制を強化しており、

医療現場に密着した製品開発を展開しています。これらの融合が、医療機器分野での競合先との差別化を図り、競争優位性のある製品を供給し続けている大きな要因にもなっています。

研究開発体制の強化・向上に向けた取り組み

当社は、グループの研究開発拠点の中核であるグローバル本社 R&Dセンター（愛知県瀬戸市）において、臨床現場と密接に連携しながら新製品開発を推進しています。国内の各研究開発拠点で培った素材・加工技術などの研究成果を本センターに集約し、高度な製品開発へとつなげています。

また、研究開発機能の分散と強化を目的として、基盤技術開発を担う大阪R&Dセンター、次世代医療機器技術の研究開発を担う東京R&Dセンター、樹脂技術開発を強化する静岡R&Dセンター、精

密加工技術開発を推進する東北R&Dセンターを設置し、拠点ごとに専門性を高めながらリスク分散を図っています。

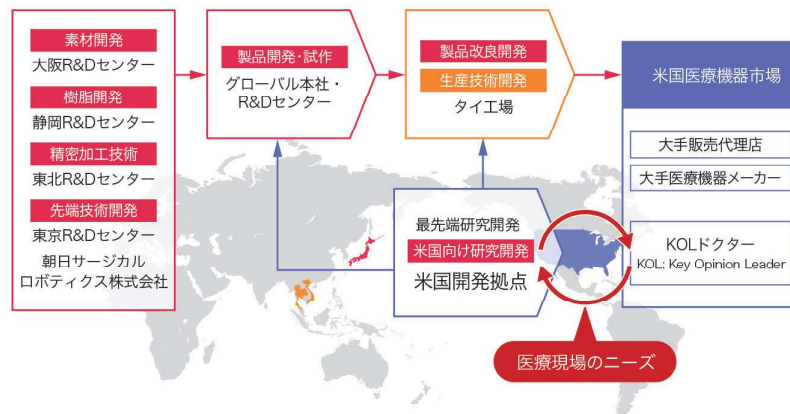
海外では、販売拠点である米国子会社ASAHI INTECC US-A, INC.に開発機能を設け、医師からのニーズやフィードバックを迅速に反映した試作・改良対応を行っています。

また、生産拠点であるタイの連結子会社ASAHI INTECC THAILAND CO., LTD.内にも開発部門を設け、製品仕様の検討や既存製品の改良などを積極的に進めています。今後は、国内で実施している材料変更などの開発機能を、このタイ開発拠点（タイ工場内）へ順次移管し、同拠点の開発体制をさらに強化してまいります。

これにより、国内の研究開発拠点はより高付加価値領域に特化し、グローバル全体としての研究開発体制の効率化と高度化を一層進めてまいります。

製品開発の川上から川下まで網羅した研究開発体制

■試作品対応を含めた研究開発体制のグローバル化により「現場力」を強化



グローバル展開に最適な研究開発体制の構築

精密加工技術の研究開発・製造
東北R&Dセンター



製品改良開発 生産技術開発
タイ工場



素材開発
大阪R&Dセンター



樹脂開発
静岡R&Dセンター



先端技術開発
東京R&Dセンター



受託開発 (CDMO)
Rev. 1 Engineering, Inc.



最先端研究開発
米国研究開発企業
ASAHI Medical Technologies, Inc.
(旧 RetroVascular, Inc.)



米国向け製品開発
ASAHI INTECC USA, INC.



5-1 イノベーションを通じた現場の課題解決

知的資本の強化 2

技術力の向上 (技術戦略・知的財産戦略)

技術力強化・向上に向けた取り組み

変化のスピードが増していく市場のニーズにタイムリーかつ的確に応えられるよう、4つのコアテクノロジーの継続的進化、新たな技術の導入、さらに4つのコアテクノロジーと新技術の相乗効果によるイノベーションを通して、基盤技術力の強化・向上を継続的に推進してまいります。

4つのコアテクノロジーは、医療機器分野および産業機器分野における新たなニーズや高度なニーズに対応するために、常に新たな視点から、より精緻に検討し、常に向上に向けて取り組んでおり、技術の展開につきましても新規材料へのコアテクノロジーの展開やコアテクノロジー間の相乗効果の制御による適用拡大などにも努めています。

また、レーザー加工技術や精密加工技術など、新たなコアテクノロジーの強化に向けて取り組んでいます。最近では、社外と連携しながら将来に向け、センサー技術やプラズマ技術などの新たな要素技術研究も推進しており、オープンイノベーションを意識した活動の積極化にも努めています。

これら新たな技術と4つのコアテクノロジーを中心とした社内技術の相乗効果を図るべく、技術の融合、技術の補完に向けた取り組みを推進しています。

知的財産戦略

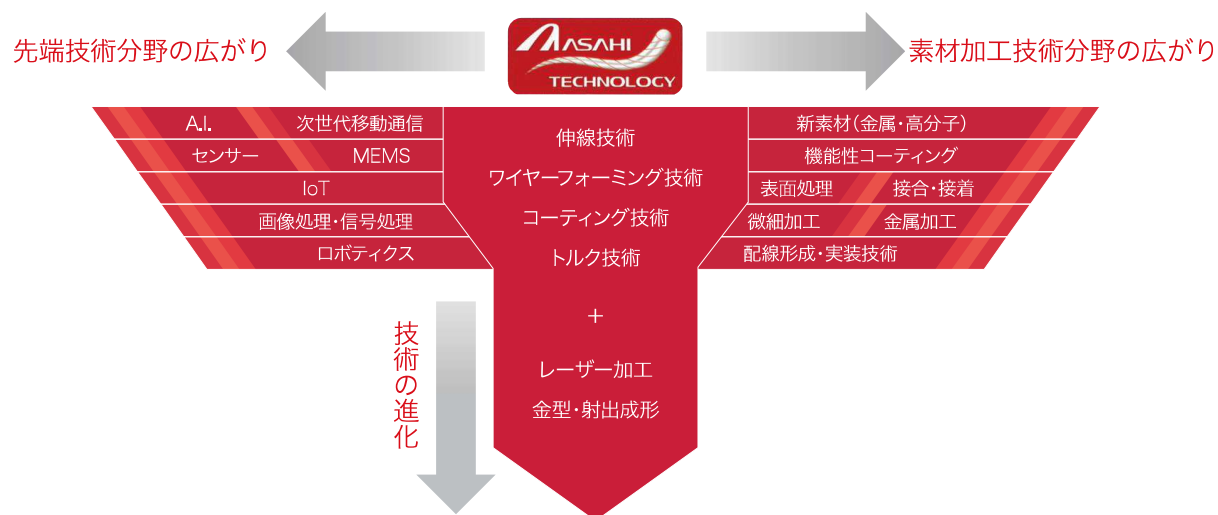
当社グループは、知的財産管理規程を設け、知的財産の管理を行っています。当社グループの活動基盤となる技術開発によって新たに生じた技術的成果については、特許出願・取得により当社グループの活動の基盤となる技術の保護を実施しています。なお、特許出願による技術の公開を防ぐため、当社グループの「Only One」技術を中心とした最も重要な素材加工技術につきましては、特許出願は実施せず、自社内で保持する技術として位置付けています。また、他社の特許権を尊重する立場から、すべての製品の上市前には特許クリアランスを実施しています。

当社ブランドの強化・保護の観点から、製品や技術の商標登録や意匠登録については積極的に取り組んでおり、2025年6月期末の時点では、グローバルで1,014件の特許・意匠権を保有しています。

〈特許侵害および提訴への対応〉

当社グループでは、知的財産の日常的な管理体制として、世界各国の法規制情報が盛り込まれた知的財産専用データベースを使用し、特許侵害等が適宜把握できる体制を構築しています。保有する知的財産の侵害を見つけた場合は、管理規程に従い、社長を委員長とした知的財産委員会にて対応します。

当社グループの技術の進化と広がり



5-1 イノベーションを通じた現場の課題解決

製造資本の強化

生産体制強化に向けた取り組み

生産体制

当社グループでは、現在、日本においては研究開発・試作に特化し、海外工場(ASAHI INTECC THAILAND CO.,LTD.(タイ工場)、ASAHI INTECC HANOI CO., LTD.(ハノイ工場)、およびTOYOFLEX CEBU CORPORATION)(セブ工場)において、素材から完成品までの一貫生産が実現できる量産体制が整っています。

リスク管理やBCP(事業継続計画)の観点から、現地事情などにより、一部の工場が操業不能に陥った場合においても、別の工場にて代替生産の大部分を担えるよう、3工場で同じ製品を製造できる体制の構築を進めています。

技術力強化・向上に向けた取り組み

生産性の更なる向上、製品品質の一層の安定化を実現すべく、量産現場における機械化、省人化、自動化を継続的に推進しています。これらの活動は、量産工場において蓄積されたノウハウをもとに、量産拠点のエンジニアが主体となって活動しています。社外からの設備導入のみでなく、コアとなる設備や機器は各拠点において試作検討・設計・製作・調整を実施しています。こうした活動についての技術情報は拠点間(タイ工場、ハノイ工場、セブ工場、日本)で共有し、連携を取りつつ技術力の強化・向上を実施しています。また、IoTへの対応を図るべく技術検討を継続的に実施しており、これらの技術を段階的に量産現場に導入する取り組み

も進めています。

生産基盤の強化に向けた取り組み

生産性向上を図るため、多数の改善(設備・機器・治具の導入、作業の効率化など)を各海外拠点において進めてまいりました。これらの活動を通して、生産基盤の一層の強化を図っています。

また、BCP(事業継続計画)の推進のためにセブ工場の量産体制の拡充を推進してまいりました。従来タイ工場、ハノイ工場で生

産していた製品のセブ工場への生産移管を進め、製造可能な製品の拡大などを実施しています。移管にあたっては、タイ工場やハノイ工場で設計・製作した製造設備や機器、治具をセブ工場に導入し、安定した製造ラインの構築を実施しています。

開発・生産のグローバルネットワーク(日本と海外の棲み分け)

【日本】研究開発/試作

グローバル本社 R&Dセンター
(日本)

- ・技術伝承のための試作ラインを拡充
- ・研究開発が主体であるものの、技術伝承のための試作ラインを保持



□日本は研究開発・試作に特化し、生産(量産)は全て海外工場にて実施

□生産効率の向上とBCP対応のための分散化を目的に生産拠点の再編を実施

□原産化が求められる地域においては、規制を鑑みながら、地域に密着した新たな生産拠点の設置を検討



【海外】生産拠点(建設中)

朝日英達医療器械(南宁)有限公司
(中国)

- ・2030年12月頃に稼働開始予定



【海外】生産拠点(既存の3工場)

ASAHI INTECC THAILAND CO., LTD.
(タイ)

- ・「量産・試作工場」から「改良開発の実行体制」、「開発案件のスムーズな生産移管」の役割へと開発寄りにシフト



TOYOFLEX CEBU CORPORATION
(フィリピン)

- ・「量産工場」として生産効率化を追求
- ・産業機器分野のみならず、完成品の量産化を立ち上げ中



ASAHI INTECC HANOI CO., LTD.
(ベトナム)

- ・「量産工場」として生産効率化を追求
- ・更なる量産化に向けて新工場の建設中



5-1 イノベーションを通じた現場の課題解決

DX (デジタル・トランスフォーメーション) の推進

全社部門横断でのDX推進

DX 推進の基本方針

当社グループは、データやデジタル技術の活用により、業務やビジネスモデル、企業文化・風土を変革し、会社の競争力をさらに高めることを目的に、社内におけるDXの総称をAIX (Asahi Intecc Transformation)としてDXの推進に取り組んでいます。お取引先様や社会のニーズに基づいて、製品やサービスの価値を高めるCX (Customer eXperience)と、従業員のニーズに基づいたデータ活用や業務プロセス改善などを行うEX (Employee eXperience)の2つのDXを軸に、推進活動により当社グループの事業成長および社会課題解決に寄与することを目指します。



社内DX総称「AIX」
Asahi Intecc Transformation

AIX 推進体制の整備

AIXを効果的に推進するために、2023年6月期より、CDO (Chief Digital Officer)を新設するとともに、2023年7月より新たに「AIX推進室」を立ち上げ、全社横断でのDXへの取り組みを推進・強化しています。AIX推進室は、現場主義に基づき各組織が価値創造・課題解決に向けて自走できるように、個別案件の推進支援、IT環境整備、社内啓もう活動、人財育成および最先端技術の探求などにおいて既存組織と連携して、社内にもAIXの浸透を図っています。また、全社のDXに関する基本方針、戦略および実行計画を策定・推進するために、AIX推進委員会にて四半期に一度、事業統括本部を横断して活動状況の共有を行い、投資判断や課題把握を行っています。

AIX 推進の具体的な取り組み

2025年6月期において、CXでは研究開発部門を中心に新規技術の研究、新規製品開発および事業化検討に取り組んでいます。EXではデータ活用を促進するべく全社データ管理基盤の活用を進め、また、生成AIの利用環境を日本国内および海外拠点に展開し業務で活用するとともに、RAG (Retrieval-Augmented Generation)*環境の整備、生成AIを活用したアプリ化を推進し、社内データを用いた拡張利用の試行を進めています。人財育成面では、生成AIを始め、各種データ分析、ノーコード・ローコードツールの活用スキルの展開および定着支援を行い、生産性向上につながる業務プロセス改善を図っています。DX推進に係る人財育成においても当社のDNAである「チャレンジ」「現場力」「自活力」「グローバルベスト」「創造的ものづくり集団」の継

承を基本方針とし、全社的なDXリテラシーの向上と推進役を担う専門人材のさらなるデジタルスキルの習得を目指します。なお、小規模なものも含めると2025年6月期のEX取り組み案件は60を超えており、社内データ活用、生成AIの業務利用、RPAによる業務自動化、業務アプリ開発、情報発信サイトの構築など取り組みの幅は多岐にわたります。

引き続き、スピード感を持って新規技術環境整備・活用を推進していくとともに、AIX推進を通じてグループ全体でサステナビリティの観点を持ったイノベーションを起こし続け、価値創造と課題解決を進め、日々改革を行ってまいります。



*RAG 環境：外部知識を検索してから生成モデルに渡し、根拠に基づいた回答を生成するためのシステム基盤のこと。